

# 平和がいちばん

2015年3月15日  
第93号

平和で豊かな枚方を  
市民みんなでつくる会



総決起集会(2/21 メセナひらかた)

## 市長の独善をチェックできない市議会 議会をかえよう！

統一地方選挙—市議会選挙が迫ってきました。「市民の会」は二人の候補者を擁立する予定です。今回の選挙では市長と市議会のあり様が厳しく問われます。この4年間、市長は市民の命や健康に関わる「原発」や「平和」の課題に対して一貫して「国の動向を見守る」との態度でした。一方「美術館」問題では「イレギュラーなやり方」と不正常さを認めながら、工事は強行しようとしています。また「指定管理者制度拡大導入」について市は「意見聴取会」を開きましたが、参加者のほとんどが疑問や反対の意見を述べたにもかかわらず、市のまとめでは当初案にいささかの変更もありません。一方の議会です。美術館は「負の遺産になる」可能性を指摘しながら賛成した議員達は市長の「不正常」を容認しました。さらに「集団的自衛権」の議論の時、「市議会として政治的な立場を表明することは避けるべきだ」との結論を確認し合ったのが枚方市議会です。地方自治の大切な点は「大事なことはみんなで決めよう」という「市民自治」の考えです。しかし現市

長は市民に周知し議論が成熟したうえで施策を執行するという行政運営ではありません。独りよがりとも言えるやり方です。そしてそれをチェックする市議会が十分な役割を果たしていません。何が原因なのでしょう。議会での論議経過と結論は市民に透明でなければなりません。そのためには「会派」優先という市民には全く無縁な議会運営は即刻止めなければなりません。個人名で選出されている議員は、「会派」を隠れ蓑にはならないし、市民に向けての発言と議会での態度表明が食い違うことがあってはならないことです。例えば「原発」や「美術館建設」の課題について各議員の言動のチェックが必要です。

市民が議会で意見表明出来る機会が少し増えました。議会改革の一步前進です。さらにこの改革を進めましょう。市政・議会の情報はすべて市民に、市民の意見はすべて市政・議会に届くことが「市民自治」の大原則です。そのうえで大いに議論いろんな角度から検討し「平和で豊かな」枚方をめざしましょう。

# こんにちは 平和が好き 人が好き 枚方が好き 松田 久子です

その9回目



介護の仕事に携わる中で、多くの人の生活にふれてきた。「人が好き」でこの仕事を選び続けてきた松田さんは、赤ちゃんからお年寄りまでが“笑顔”で暮らせることを心から願っている。今回はテーマ「子ども・若者」で聞きました。

1957年滋賀県彦根市生  
滋賀大学教育学部卒  
夫・子二人の四人家族で  
西田宮に住んでいます

## Q1. 二人の子どもを育てながら働き続けてきた経験から、何が必要だと思いますか？

夫婦とも実家が遠く、子どもが病気になった時に預けられる病児保育所の存在はありがたかったです。「子育てのしやすい町・枚方」でした。今、一時保育所が増えました。若いお母さん達は、ライフスタイルから短時間の仕事を選んだ時、また短時間しか雇用されない時に一時保育所を利用しますが、通常保育所入所基準がフルタイム雇用優先なので入所ににくいのが現実です。そ

して、一時保育を利用した場合の保育料が高すぎます。短時間の仕事は給料（時給）も正規社員より低い場合が多いのに、保育料が高いのはおかしいことです。通常保育所の保育料が親の収入に合わせて決められるように、一時保育にも同じような仕組みが必要です。また、待機児童も現在200名を超えます。その解消にこそ税金は優先的に使うべきだと強く思います。

## Q2. 学齢期の子どもたちに対し、枚方市にどのような施策を求めますか？

昨年10月末、財務省が「少人数学級（35人学級）の見直し」を求めるひどい方針を出しました。枚方市は現在、小学校3年生まで少人数学級を実施しています（来年度から4年生まで）。学力の問題だけでなくいじめの問題等々ある中で、子どもたちときめ細かな関わりを先生が行える環境づくりとして、小学6年生まで担当する子どもたちの人数が少なくすることは必要です。

子どもたちの「食」の問題も大切です。枚方市では小学校が給食になっています。中学校も2016

年度から「選択制」で民間業者に委託の方向で実施しようとしています。先日、「食育カーニバル」に参加しましたが、枚方市の学校給食についてのコーナーでは、地産地消を大切に地元の食材を使ったり、自然の素材を生かしたメニューの工夫など、安心・安全の給食の取り組みが報告されました。また、海外の食文化に親しむことも大切にされていました。中学校給食もこのような方向で、子どもたちの「食育」を維持してほしいと思いました。

## Q3. 若者の不安定雇用の問題ですが、枚方市は何をするべきだと思いますか？

若者の不安定雇用の問題は深刻です。若者の3人に1人が非正規の不安定雇用です。枚方市でも非常勤職員が増えています。契約社員や派遣社員、アルバイトなど名称は様々ですが、賃金も安く、将来の見通しが立てられません。枚方市は、公的施設の運営・管理の「指定管理者制度」導入を進めています。そこで

働いている非常勤職員は、「指定管理者」に雇用されたとしても、直営であった時の労働条件が引き継がれる保証はありません。「効率化」の名の下に「指定管理者制度」が導入されようとしているのですから。枚方市は、不安定雇用の職員ではなく、正規職員を増やしてことが必要です。次世代を担う若者に社会的な対策をとらなければ、私たちの将来にも大きな影響を与えます。



ありがとうございました <インタビュー：おた幸世>

手塚たかひろと一緒に決意の表明(2月21日 メセナひらかた)

# 手塚たかひろ 議員日誌

美術館建設の  
問題点の追及  
を続けています



議員報酬半減と  
政務活動費受け取り拒否  
を続けています

**2月1日 リレートークに参加** テーマは香里ヶ丘中央公園への美術館計画問題。香里在住の方の呼びかけに応じて昨年12月に続き2回目。時折小雪が舞う天候にもかかわらず参加者は20名。樟葉駅前～楠葉コノミヤ前～牧野コノミヤ前のコースで、美術館建設の見直しを求める思いを参加者それぞれが訴えた。街角シール投票の結果は、遠方になればなるほど「知らない」「どちらでもよい」などの答えが多い。建設予定地から離れた地域の方に思いを伝え、美術館問題を知っていただくことを目的に実施。話し込めば、ほとんどの方が美術館建設に疑問を持たれ、見直しが必要だと言われる。市内一円に広く宣伝することが必要だ。

**2月12日 絵本「アラカシの森」** この絵本は香里ヶ丘中央公園で生まれた作品。この日、作者の松本さんの読み聞かせと古谷學さんの美術館問題を語る会が西禁野の“カフェカジョ”で開かれた。同じような取り組みは2月19日に宮之前バス停前の“カフェサリー”でも行われ、どちらにも10人程が参加され和やかに交流ができた。森で遊ぶ子供たちや動物たちとそれを温かく見守るアラカシの木々。アラカシの森をつぶすことを心配している木々の思いが伝わる物語。松本さんの語りは、公園で遊ぶ子ども達や森の木々への慈しみにあふれ参加者の心に響いた。大きな声で「反対、反対」というのではなく、絵本などを通じて訴えかけるやり方は人の心に深く染み入る。もっと多くのところでやってほしいとの声も出た。絵本は近々出版される予定。

**2月21日 枚方市民の会 15年早春 総決起集会 「明日に向かって-歌とお話の集い」** 一部は「浪速の歌う巨人」趙博さんの歌と語り。格差が拡大する社会の現状を痛烈に批判する力強い歌声は参加者に共感を呼び、新たな趙博ファンを作った。二部は、古谷學さんをはじめ四人の方から美術館問題、生涯学習市民センターと図書館への指定管理制度導入における行政の独善、市民無視への批判、原発避難者支援、高齢者の介護問題、国や府の指示待ちで市民の命と生活を守るために独自施策を打ち出そうとしない市民に冷たい枚方市政の現状が語られた。三部では松田久子、手塚たかひろが市政変革-議会改革への思いを述べた。市民参加の街づくり、市民が主人公の市政・議会改革への思いを伝えることはできたと思っている。美術館建設強行を許さないための見守り活動を終えて駆けつけていただいた皆さんをはじめ参加いただいた方々へ感謝・感謝。(一面写真)

**2月23日 母親が一泊で帰宅** 老健施設に入所中の母親が一泊だけだが帰宅。介護する身として施設のありがたさを実感している。帰宅早々、「よう生っている」と庭にたわわに実った金柑の実を見て喜ぶ。翌朝、施設に戻る前に香里ヶ丘中央公園に車椅子で行く。少し公園が狭くなったと感想を述べる。孫を遊ばせに来ていた公園の行く末が心配なようだ。特別養護老人ホームの入所待機者は1000人を超える。施設の増設は急を要する。

**2月26日 竹内市長の暴挙** 降りしきる雨の中、午後1時過ぎ、公園課長をはじめ約40名の市職員がやって来て、住民の抗議の声を無視して、高さ1.8mのB型フェンスを張った(左写真)。2月23日に地元の代表4名と市長・副市長が懇談した数日後の出来事。地元住民との懇談はこのためのアリバイ作りだったのかと思う。市は「工事車両の進行ルートが確保できた」と、住民の声を無視して美術建設工事を強行しようとしている。地元の方々はこれ以上の暴挙を許さないと、直ちに市長へ抗議を行い、工事見直しを求める行動を強めている。



**2月23日** 2月分議員報酬より224,680円を大阪法務局に供託

## 辺野古の闘いは日米両政府を追い詰めている

高垣喜三（沖縄県本部町・元枚方市職員）

大浦湾を「臨時制限水域」として囲い込むフロートのアンカーと称して海中に投下した20~40トンのコンクリート構造物は、世界に類まれなサンゴを破壊している。さらにこの暴挙に抗議し阻止するために海に漕ぎ出す20艇ほどのカヌーチーム「辺野古ぶるー」や4、5隻の平和船団に今や海の暴力団と化した海保「海猿」が襲い掛かる。

その様子はドキュメント『圧殺の海』で暴かれているところだが、さらにカヌーに飛び乗り転覆させ、市民の足を高速艇から引っ張り、上半身は海に置いたまま長時間海上を引っ張りまわすとか、拘束した市民を沖合4、5キロの冬の海上に連れて行き放置するなど「殺人未遂」ともいえる横暴を繰り返している。

市民はキャンプシュワブゲート前ではボーリング調査や埋立資材の搬入阻止と海での暴力や工事を阻止するため、「海猿」「防衛局」「海上作業員」の基地への進入を座り込みや車へのピケットに24時間体制で取り組んでいる。しかしこれまた防衛局の用心棒と化している沖縄県警・機動隊がいわゆる「ごぼう抜き」や暴力で「見えないところで手をねじ上げる」「ひっぱっておいて急に手を放し転倒させる」「転倒した市民に膝を落とす」などを使った強制排除に出てくる。海やゲート前での市民のけが人、救急搬送の人数は10人を超える。

しかし、こうした我々市民の非暴力の抵抗はさらに多くの県民の怒りと結集を誘い、『建白書の実現を目指す島ぐるみ会議』による那覇発辺野古行チャーターバスは1月から毎日の運行となり、さらに宜野湾市、うるま市、沖縄市などからも運行、毎日ゲート前には100名から200名の県民が駆け、岩礁破碎工事の停止指示に踏み出した翁長県政を支える力になっている。



毎日の取り組みが確実に日米政府にボディーブローとなって効いている。思うように工事が進まない日米政府の焦りが反対運動に対する暴力的対応、座り込みテントへの嫌がらせ、とりわけ2月22日の3000名を優に超える結集となったゲート前県民集会直前、米軍が前面に出てきて山城博治平和運動センター議長ら2人の無理矢理の不法拘束、県警による不当逮捕劇となってあらわれてきた。

海と陸での激しい闘いの日々は続く。



### 平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 松本 健男（弁護士）  
 家高 憲三（元教育長）  
 黒田 薫（平和都市枚方を考える市民の会）  
 鈴木めぐみ（親と子のリズム遊び講師）  
 奥村 秀二（弁護士）  
 おおた幸世（枚方市平和無防備条例を実現する会）  
 事務局長 手塚 隆寛（枚方市市議員）



〒573-1197  
 枚方市禁野本町  
 1-5-15-106  
 市民の広場“ひこばえ”  
 Tel&Fax  
 072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですが連絡ください